

本校の「看護研究」の授業概要

井澤 和代 天野 雅美 山本 君子

東京医科大学看護専門学校

I. はじめに

平成9年の看護教育カリキュラム改正による教育の基本的考え方の1つに「人々の健康上の問題を解決するため、科学的根拠に基づいた看護を实践できる基礎的能力を養う」¹⁾がある。カリキュラム改正の背景を踏まえ、看護師をめざす者として、3年課程の専門学校においても、看護研究の基本的態度とその方法の学習を体験することは、看護能力・問題解決能力育成という点から意義があると考えられる。3年課程の専門学校である本校では「看護研究」を基礎看護学に位置づけ、看護研究のプロセスを体験学習し、研究方法と研究の意義を実感して学ぶことを目標に演習を展開し3年を経過した。そこで、本校の看護研究の授業概要を報告する。

II. 授業の概要

1. カリキュラム全体及び看護学の中での科目の設定の意義と位置づけ

平成9年の看護教育カリキュラム改正を受け、本校では看護研究(1単位/30時間)を専門分野の基礎看護学に位置づけ、3年次の6月から12月にかけて展開している(表1参照)。

平成9年カリキュラム改正の考え方の一つに、各養成所の教育の特色を生かしたカリキュラムの展開がある。本校の教育目的は、自主自学の理念のもとに、看護の向上と社会に役立つ質の高い看護教育をめざすことである。本校の卒業生の進路として約80~90%が特定機能病院に就職し、6~7%が保健師・助産師養成施設へ進学する。今後、卒業生が大学へ編入したり、大学院へ進学することも多くなってくるのが予測さ

れる。これらの事から、研究成果の効果的な活用、または研究を实践するために、看護研究のプロセスを体験し、看護研究の基本的態度とその方法を学習することは、意義があると考えている。

2. 関連科目の概要

関連する既習科目は、基礎分野の「論理的思考」・「情報科学」・「論文作成法」・「研究方法」である(表1参照)。「論理的思考」では、物事を系統立てて読解、記述、討論できるようになるための基本を学び、「論文作成法」では、論理的に文章を書くための基本を学習する。次に「情報科学」では、看護に関する情報の意義と検索方法を学ぶ。

特に関連深い「研究方法」においては、研究を行っていく意義、必要性を理解し、研究の種類・方法・プロセスを学ぶことである。内容は研究の意義、研究の種類と方法、研究のプロセスである。講義と一部演習を含んだ授業方法で、3年次の4月から7月に、「看護研究」にやや先行し、看護研究の演習を展開しやすいように設定している。研究書や論文等を批判的に読むための演習も含まれている。また、「看護研究」の演習を効果的にする為に、「研究方法」の担当講師と連携し、教授内容を調整している。

3. 図書室における学習支援状況

本校図書室では、最新看護索引、日本看護関係文献集、医学中央雑誌CD-ROM版・WEB版、CINAHL冊子体・CD-ROM版、MEDLINEなどの二次資料を利用することができる。一次資料として2001年は和雑誌151タイトル、外国雑誌13タイトルを受け入れている。また、学生が使用可能なパソコンは6台備えてお

表1 関連科目と科目目標・内容

科目	科目目標	内容	学期 学年	前期	後期
論理的思考 【1単位/30時間】	1. 物事を系統立てて読解・記述・討論できるための基本を学ぶ。	1. 論理的読解 2. 論理的文章 3. 論理的討論	1年次	→	
情報科学 【1単位/30時間】	1. 看護文献検索の意義を理解する。 2. 看護関係の文献を効果的に探すための方法を学ぶ。	1. 情報科学とは 2. 看護文献の特性と検索の意義 3. 看護文献検索の方法 1) 文献調査の種類 2) 看護文献検索のための資料 3) 看護文献検索の演習 ①文献検索 ②文献カードの作成	1年次	→	
論文作成法 【1単位/30時間】	1. 論理的文章作成法について理解する。	1. 論理的文章作成法 1) 論文とは 2) 論文作成の過程 3) 論文への雑誌文献活用の意義 4) 文献引用の目的 5) 完成した論文の経過 6) 論理的文章作成方法	2年次	→	
研究方法 【1単位/30時間】	1. 研究の意義と方法を理解する。	1. 研究の意義 2. 研究の種類と方法 3. 研究のプロセス 1) 研究問題の選択 2) データ収集方法 (1) 量的研究方法と質的研究法概説 (2) データ収集方法具体的方略 ①面接法 ②質問紙法 ③観察法 ④生物生理学的方法 3) データ分析方法 (1) 量的分析 ①記述統計 ②推計統計 ③コンピュータ活用 4) 研究計画書作成 5) 研究結果の解釈と報告 (1) 結果の解釈、考察 (2) 学会報告 (3) 論文作成	3年次	→	
看護研究 【1単位/30時間】	1. 看護研究の意義・方法の体験を通して理解する。	1. 看護における研究の意義 2. 看護研究のプロセス 1) 問題提起 2) 先行文献学習 3) 研究計画書の作成 4) データ収集 5) データ分析 6) 分析結果の考察 7) 原稿の作成 8) 研究発表	3年次	→	

専門分野・基礎看護学

り、学内 LAN を経由してインターネットに接続している。Microsoft Word・表計算ソフト Excel・プレゼンテーションソフト PowerPoint, 統計ソフト SPSS が活用できる。おなじキャンパス内にある本大学情報教育実習室のパソコンの使用が可能である。

本校の図書室司書が、文献検索方法・一次資料の探し方・相互貸借の手続き、パソコンの操作などについて、学生に助言をしている。

4. 科目目標と学習目標

本科目の目標は看護研究の体験学習を行い、その意義と方法の理解をめざすことにある(表1参照)。本科目では、研究の高いレベルを求めることより、体験を通し研究のプロセスを理解し、研究の意義を実感して学ぶことを目標にしている。興味ある問題を追及し、研究することで、看護への理解の深まりも期待している。さらに、研究のプロセスに真摯に取り組むこと、倫理的配慮の重要性を理解して取り組むことを大切にしたいと考える。

III. 演習の展開方法

1. 演習全体の進め方

本科目は、先行して開講する「研究方法」で学習した内容を基に、同じテーマに関心があるメンバー3~4名程度のグループを編成し、看護研究のプロセスを体験的に学習する。また、研究結果を論文としてまとめ、学校内で発表会を実施する。

学年の学生数は約80名である。指導教員は、基礎看護学の担当教員3名、他の看護学の担当教員2名、非常勤講師3~4名、計8~9名である。非常勤講師は、大学院修士課程以上に在学もしくは終了していることを条件に依頼している。教員は3~4グループ(10~15名)の学生を担当し演習指導する。演習のグループ編成は、担当教員の研究領域、グループの人数を考慮し決定する。

「看護研究」の学習プロセス(表2参照)は、4月に科目のオリエンテーション・10月に論文の記載・発表についてのオリエンテーションを実施する。6月にテーマ選択・グループ編成のための合同演習を1回実施する。各担当教員別のグループ毎の演習は、1回の演習時間を2時限(180分)とし、7月から12月1週目にかけて計11回実施する。I. 研究計画書立案の演習は、7月から9月初旬までの期間に3回実施し、①テーマ選択②先行文献学習③研究の目的・方法検討の

内容で実施する。II. データ収集は、夏期休暇期間、または9月から11月2週目までの、授業時間以外の時間を活用し実施する。III. 結果の分析・考察のための演習は、9月から11月までの期間に5回実施し、①データ整理②データ分析③結果の考察の内容で実施する。但し、データ収集時期が遅くなった場合この段階の演習期間が短くなる。IV. 研究結果発表のための演習は、11月末から12月の期間で3回実施し、①論文の記載②発表準備(発表原稿・プレゼンテーション)の内容で実施する。12月2週目に論文を提出し発表会を12月末に開催している。

演習の進め方として学生は、授業時間以外を活用し、研究のプロセスに沿ってグループワークを進め、グループワーク内容を資料にまとめ演習に臨む。演習時間は、グループ毎に進めた演習内容を発表し学生間で検討し担当教員の指導を受ける。演習課題の提出物は、研究希望書①②・研究計画書である。学習のまとめとして、グループワーク用紙・個人レポートを提出する。

演習を進めるにあたり、「研究方法」の授業資料および、「看護学大系10：看護における研究、日本看護協会出版会」をテキストとして活用する。

2. 講義・演習の実際

1) 科目のオリエンテーション

オリエンテーションのねらいは、科目の目標と展開を理解し、論文提出までの計画立案に役立てること、看護研究への動機づけを図り研究のテーマについて考える機会とすることである。オリエンテーション内容は、看護研究を学習する意義、学習目標、授業展開の方法とスケジュール、学習の評価である。

オリエンテーション方法は、研究テーマの発見のために昨年度までの学生の研究テーマを配布している。質的研究の例として観察法・面接法、量的研究の例として質問紙・生理学的測定法を取り上げ、テーマ・対象・調査場所・データ収集方法・結果を紹介している。

2) テーマ検討のための演習

演習の準備として学生は、希望する研究の概要を記述し、研究のテーマを検討するための「研究希望書①」(表3参照)を提出する。この演習では、教員が4~5グループを担当する。演習内容は、学生が何を研究したいのか、研究の動機・研究の意義を発表し、教員から研究の可能性とテーマを選択するための助言を受け

表2 看護研究の学習進度

看護研究 (1単位/30時間)

月	4月	5月	6月	7月	8月 (夏期休暇)	9月	10月	11月	12月
講義 (講義回数)	オリエンテーション (1回)						⑤論文の記載・発表に ついての中間オリエン テーション (1回)		
演習内容 (演習回数)			1. 研究計画書立案 テーマ選択・グループ編成 のための合同演習 (1回)	①テーマ選択 ②先行文献学習 ③研究の目的・方法検討 (3回)	II. データ収集	III. 結果の分析・考察 ①データ整理 (1回)	②データ分析 (2回)	③結果の考察 (2回) IV. 研究結果の発表 ①論文の記載 (2回)	②発表準備 (1回) (発表原稿・発表プレゼン テーション) ③発表会
提出物			研究希望書 ①②	研究計画書		グループワーク用紙			グループワーク用紙 研究計画書 (最終のもの) 研究論文 (抄録) 個人レポート

表3 研究希望書①

<p>希望する研究の概要を発表し、研究のテーマについて検討する演習のためのワーク用紙</p> <p>I 何を研究したいのか記載する。 問題の発見：疑問を持っていること、もやもやしていることを表現する。 例) ～について気になる。 ～はなぜだろう。 ～についてはっきりさせたい。</p> <p>II その研究をしたいと思ったきっかけ(動機)を記載する。</p> <p>III その研究をすると看護にどのように貢献(意義)があるのか記載する。</p>	<p>IV 疑問点(演習の際に聴いてみたいこと)。</p> <p>V 演習・アドバイスなどで気づいたこと。</p>
---	---

表4 研究希望書②

<p>担当教員別のグループ編成のための資料となります。大まかな研究のプランを記述してください。</p> <p>I 仮) テーマ</p> <p>II 問題提起(どのような問題について研究したいか)</p> <p>III 研究の意義</p> <p>IV 文献学習(文献検討の結果わかったこと・文献検索に使ったキーワード)</p> <p>V 今考えている研究デザインについて(研究の種類・対象・データ—収集方法・分析方法)</p> <p>VI データ収集期間</p> <p>VII 質問・迷っていること・その他希望</p>
--

表5 研究計画書の書式

<p>I 研究テーマ</p> <p>II 問題提起</p> <p>III 目的</p> <p>IV 研究の背景(文献検討)</p> <p>IV 研究の意義</p>	<p>V 研究方法</p> <p>1 対象</p> <p>2 調査方法</p> <p>3 データ分析方法</p> <p>4 倫理的配慮</p> <p>VI スケジュール</p> <p>1 タイムスケジュール</p> <p>2 予算</p> <p>VII 引用・参考文献</p>
---	--

る。さらに疑問点を解決するために助言を受ける。その後、担当教員別のグループ編成のための資料として、「研究希望書②」(表4参照)を記載し提出する。

3) 研究計画書立案のための演習

学生は、テーマ・動機・問題提起・目的・研究方法、文献検討の結果などを発表し、教員から助言を受け、研究計画書(表5参照)を立案する。担当教員は、研究の意義、倫理的配慮、研究期間・調査可能な対象や調査場所の確保・研究にかかる経費などの限界を考慮し助言する。その際、学生の動機を大切にす。また、必要に応じ文献検索方法の助言をする。

4) データ収集

学生は、調査場所に研究を依頼し、対象への説明と同意を得てデータを収集する。担当教員は、研究依頼の手続き、倫理的配慮、アンケート配付回収方法・面接方法などデータ収集の実際、挨拶・言葉づかい・服

装などのマナーを助言する。また、調査場所の責任者と担当教員への報告・連絡・相談を怠らないように指導する。さらに、データの取り扱い、細心の注意を払い厳重に保管するように指導する。

5) 結果の分析・考察のための演習

学生は、研究計画書に基づき、データの種類に応じてデータを整理・分析する。例えば、質問紙による量的データの場合、パソコンに入力し分析する。また、質的なデータの場合、面接結果のテープ起こし・参加観察で得られたデータの記述など、データを整理し内容を分析する。演習時間は、データの整理・分析の結果を発表し助言を受ける。担当教員は、データの整理方法、研究の問題・研究目的に合ったデータ分析方法について助言する。量的なデータの場合、集計や分析についてパソコン使用の基本的な方法の助言が必要な場合も多い。質的なデータの分析の場合、分析方法の助言とともに、分析結果の妥当性を確保するために助言する。

考察のための演習では、学生は結果から気づいたこ

と、結果の意味についてグループ内で意見を出し合い、自分達の考えを検討する。また、結果を文献と比較・照合し、結果から見出されることを明確化する。さらに、データ収集方法・分析方法の妥当性、結果の一般化に対する評価を行い研究の限界を確認する。担当教員は、考察の方法と内容を助言する。考察の内容については、問題・目的からそれることなく、妥当性を確保できるように助言する。

6) 研究結果の発表

研究結果は論文にまとめ、学内の発表会で発表する。提出された論文は、年度ごとに論文集に製本し、本校の図書室へ保存している。

① 論文の作成

論文は、A4用紙に4枚(約原稿用紙16枚程度、図・表を含む)にまとめて提出する。論文構成は、一般的な形式である序論・研究方法(対象・方法)・結果・考察・結論・文献としている。学生は、関連科目の「研究方法」で学習した論文の形式・論文の書き方と表題のつけ方・文献の書き方に従って論文を作成する。演習時に記載した論文に対する助言を受ける。担当教員は、論旨の一貫性を確保し、適切な用語を用い、わかりやすい表現で記載できるように助言する。また、効果的な図・表の形式について助言する。パソコンを活用しグラフや表を作成する方法を必要に応じ指導している。

② 発表準備のための演習

発表方法は口頭発表またはポスター発表とし、学生が自由選択する。プレゼンテーションの種類は、模造紙・OHP・スライド・VTR・ビジュアルプレゼンター・プロジェクターのいずれかを学生が自由に選択する。抄録は学生の負担を軽減する為に、論文を縮小し印刷したものを利用する。学生は発表原稿とプレゼンテーションの準備を進め、効果的な発表のための助言を受ける。担当教員毎に、発表会の練習をすることもある。担当教員は、研究の目的・研究方法・結果をわかりやすく効果的に発表できるように、発表内容とプレゼンテーションの方法を助言する。

③ 発表会の運営方法

発表方法の学習のために、全グループが発表できるようにスケジュールを組んでいる。発表会の参加方法は、学生自身の興味あるテーマの発表を自由に聴き、他の研究発表に対し、質問や感想を伝え相互に学び合う。そのために教員が発表会の進行を担当する。教員

は、質疑応答が活発になるように進行する。また、発表内容に対し良い点・感想、今後の学習の課題となる点について講評をする。

尚、発表会は1,2年生や看護研究担当以外の教員も参加し、発表に対して全員が自由に質問や意見・感想を述べるように努力し、共有学習の場となるように運営している。

3. 学習のまとめ

学生はグループワーク用紙(表6参照)に看護研究のプロセスについて、演習の取り組みや担当教員からの助言などから、気づいたこと・感じたこと・考えたことを、グループの学びとして残している。論文提出後、研究のプロセスを体験し感じたこと・考えたことをもとに「看護における研究の意義」を個人レポートにまとめている。

科目のまとめとして発表会後に、各担当教員は学習の成果についての評価と、今後研究に取り組むにあたり大切にして欲しいこと、看護における研究の意義を認識し問題意識を持ってお互いに継続的に学んでいきたい気持ちを、コメントとして伝えている。

4. 学習の評価

学習の評価は、演習の取り組み状況、研究プロセスの理解及び論文内容、個人レポートによって個別に評価している。特に看護研究のプロセスを体験し、看護研究の必要性を実感することを重要と考え評価している。

表6 グループワーク用紙

月日	演習の主内容	看護研究のプロセスについて、気づいたこと・感じたこと・考えたことを、グループの学びとして残しておこう。
○/○	例) 文献検討	○○○

IV. おわりに

平成9年度のカリキュラム改正後、「看護研究」を展開し3年間を経過したので、「看護研究」の授業概要を

報告した。今後は、「看護研究」の学習内容や演習方法について評価していきたい。

最後に、「看護研究」のカリキュラム検討、および3年間の科目の運営に携わってくださった諸先生方、その他関係者の皆様のご貢献に感謝申し上げます。

引用・参考文献

- 1) 厚生省健康政策局看護課：看護婦等学校養成所教育課程改正案の概要，97，1989.
- 2) 広瀬京子：看護学生の看護研究における学びの様相と課題，日本看護学教育学会誌，10(2)，172，2000.
- 3) 留田通子，松井優子他：当校における学生への看護研究指導，看護展望，24(12)，1377-1384，1999.
- 4) 松本幸子，金山時恵他：新見女子短期大学における学生の看護研究の動向；過去5年間の分析より，新見女子短期大学紀要，18，93-99，1997.
- 5) 中川節子，森下妙子：卒業後および看護基礎教育における看護研究指導；卒業生の意識調査から，第28回日本看護学会集録 看護教育，28，23-25，1997.
- 6) 川口孝泰，小西美和子他：学会誌掲載論文からみた今後の看護研究活動の課題，日本看護研究学会雑誌，23(4)，85-91，2000.
- 7) 黒田裕子：看護研究のこれからの課題，看護展望，26(2)，146-149，2001.
- 8) 澤田愛子：看護研究における倫理，看護展望，26(2)，150-154，2001.
- 9) 伊須田栄子：看護基礎教育において「看護研究」をどう位置付けるか，看護展望，18(1)，18-20，1993.